

# 尿道留置カテーテルの管理

## カテーテルケアのポイント

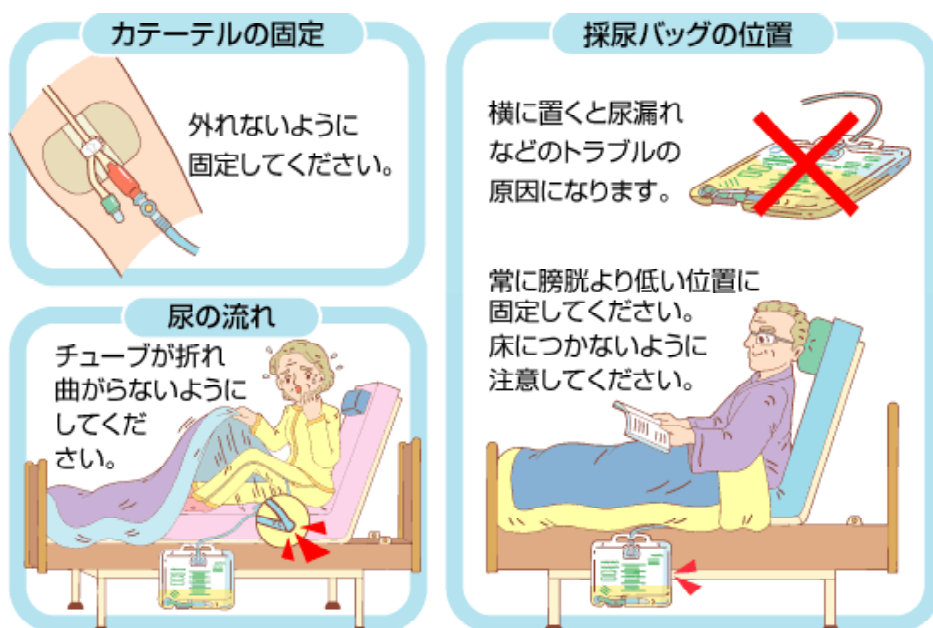
1. カテーテルの早期抜去を目指し、不要な使用は避ける
2. 毎日カテーテル留置の適応をアセスメントし、可能な限り早期に抜去する
3. 留置の適応に関してのカンファレンスを行い、評価表(フローチャート)を用いてアセスメントする
4. 清潔操作によるカテーテルの挿入
5. カテーテルの閉鎖を破らない
6. 尿の逆流防止
7. 交差感染の予防
8. 適切なカテーテルの選択

## カテーテルと排液チューブの閉鎖保持

1. 接続部を外さない
2. 閉塞があればカテーテルの入れ替えを行う
3. 蓄尿バッグだけの交換は行わない
4. 不要な膀胱洗浄は行わない
5. 採尿時には採尿ポートを使用する

## 交差感染の予防

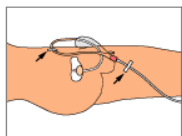
1. 標準予防策を行う  
適切な手指衛生  
尿を破棄する場合、検体採取する場合などは前後に手指衛生を行う  
正しい防護用具の使用  
尿で手や白衣が汚染する可能性のある場合は、手袋やエプロンなどの防護用具を使用する  
蓄尿バッグから尿を出すときは患者ごとに手袋を交換する  
汚染した手袋で安易に環境表面を触らない
2. 蓄尿瓶を共有しない  
同じ蓄尿瓶で複数の患者の尿の回収を行わない
3. 排尿口を蓄尿瓶に接触させない
4. 蓄尿バッグを床に接触させない。



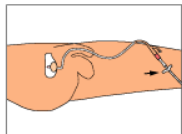
## 尿の停滞と逆流防止

1. 逆流を防ぐために、蓄尿バッグは常に膀胱よりも低い位置に保つ。
2. カテーテルや排尿チューブのねじれや折れ曲がりなどによる尿の停滞を避ける。
3. 適切なチューブの固定。

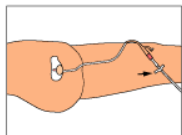
図7.カテーテルの固定方法



▲男性（長期留置）の場合  
ペニスを頭部のほうへ向け腹部上で固定する。そして、フォーリーカテーテルは大腿部の上を通して下げ、大腿部の外側で排尿用チューブと接続し、固定する。



▲男性（短期留置）の場合  
短期間の場合は上図のようにペニスを下方へ向けてもよい。フォーリーカテーテルは大腿部の上を通して排尿用チューブと接続し固定する。



▲女性の場合  
短期留置、長期留置にかかわらず大腿部の上を通して、排尿用チューブと接続し固定する。

- ・ 女性の場合は大腿部にテープで固定する
- ・ 男性の場合は陰茎を上向きに持ち上げて腹壁に固定する
- ・ カテーテルの可動性が大きすぎると、カテーテルの移動により尿道粘膜を損傷する可能性がある
- ・ 緊張させすぎると、尿道口に潰瘍を形成して感染を起こしやすくなる

## 陰部の清潔

1. カテーテルを強く引っ張ったり、外陰部を強く擦って粘膜を傷つけない
2. 便失禁の際は、陰部が汚染されカテーテルと尿道粘膜の隙間から微生物が侵入するリスクが高くなるため陰部洗浄を行う
3. 陰部洗浄は清潔保持、不快感緩和の目的で行う

\* 陰部洗浄や消毒が CAUTI (尿道留置カテーテル関連尿路感染) の予防になるという報告はない



## ICUでの蓄尿バッグの交換について

### 入室した患者の蓄尿バッグが精密用でない場合の対応

1. 細かな尿量測定が必要か主治医に確認する  
8時間以上での測定で可能ならば精密用へ交換せず、そのままの蓄尿バッグを使用する
  2. 精密用での管理が必要な場合、下記の場合のみ適切な方法で交換を行う  
挿入されて24時間経過していない場合  
出血傾向や挿入困難が予想され、尿道粘膜の損傷や出血の可能性がある場合  
生命の危機的状況にあり、生命維持のための処置が優先される場合  
患者に説明の上、再挿入の同意が得られない場合  
主治医の指示がある場合
- \* CDCガイドラインでも蓄尿バッグの交換は推奨されておらず、原則入れ替えが必要であるが、入れ替えをすることで、挿入による苦痛や粘膜損傷など患者へ負担をかけるリスクもあり、やむを得ず蓄尿バッグを交換することがある。交換をする基準を作成し、これを基に管理を行い感染対策に努めていく

## 蓄尿バッグの交換方法

### 必要物品

- ウロメーター 350
- コッヘル(未滅菌でOKだが消毒済みのもの)
- イソジンプッシュ綿棒

### 方法

1. カテーテルとの接続部分についてある赤のシールをはずす
2. カテーテルをコッヘルでクランプする(クランプ場所に注意⇒カフ注入ラインの損傷を防ぐ)
3. カテーテルとバッグのチューブとの接続をはずす
4. カテーテルの接続部分をイソジンで消毒する
5. 新しいウロメーターのチューブとカテーテルを接続する
6. カテーテルのコッヘルをはずし、クランプを解除する

## 採尿ポートの使用方法

1. 採尿ポート部の少しバッグ側でしばらくクランプしておく(シーツクリップでチューブを折り曲げる)
  2. 採尿ポート部をアルコール綿で消毒し乾燥させる
  3. 採尿ポートに直接シリンジを挿し、採尿する(注射針は絶対に使用しない)
- \* 詳細は別紙のメディコン手順書を参照

## 24時間蓄尿(Ccrの検査など)の方法

1. 24時間分の尿を貯め、全体をかき混ぜ、10ml程度の尿を検尿スピッツへ移す
  2. 検体スピッツに患者名と検体名、全尿量を記入し、検査室へ提出する
- \* ウロメーターの蓄尿バッグがいっぱいになり、別容器での保管が必要になった場合は、蓄尿瓶をビニール袋で覆い、その中に貯める。(蓄尿瓶の洗浄剤が検体に混じり、適切に測定できなくなるため)